

Report

令和3年(2021年)度 自然ふれあい講座 「みんなで温暖化ウォッチ～セミのぬけがらを探せ!2021!」

10年目の抜け殻しらべ

平成24年(2012年)から始めたセミの抜け殻調べ。地球温暖化が身近な自然環境にどのような影響を及ぼしているかを市民参加で把握し学ぶために、県内6地域の同じ場所で毎年1回ずつ行ってきました。今年はその10回目(10年目)でした。



アブラゼミの抜け殻

今年の講座は中断

昨年は、新型コロナウイルス感染症対応のため、年度当初に中止と判断しました。今年は感染症対策を取った上での実施に向け、関係者と準備を進めてきました。その結果、6会場で大人67名、子ども103名、合計170名の参加申込がありました。

第1回(8月1日)の飯田会場は、36名の参加者と共に大変楽しく開催できましたが、その日の夕方に当研究所がある長野圏域で新型コロナウイルス「特別警報I」が発令され、県の基準に基づき、第2回(8月2日)以降の講座はすべて中止いたしました。本当に残念です。



飯田会場(8/1)
集めた抜け殻を親子で楽しく分類

抜け殻調査は継続

この講座では、参加者が環境の変化に気づききっかけを提供することを目的とすると同時に、セミの抜け殻の種類・数の変化のモニタリングも兼ねています。

そのため、第2回～第6回の会場については、昨年と同様に研究所スタッフと協力者のみで、同じ時間帯にセミの抜け殻を集めることにしました。ちょっと寂しかったです。



松本会場(8/2)
スタッフと協力者のみで調査

今年の結果

集めた抜け殻は全体で3024個。結果は下図の通りで、概ね例年と同じでした。飯田、大町、長野会場ではアブラゼミが80%以上、伊那会場ではヒグラシが42%と多く、松本会場ではアブラゼミとミンミンゼミがほぼ同数で他の種類も見られ、上田会場では個体数は少ないですが、ミンミンゼミが83%となりました(図)。

この講座は来年以降も継続する予定です。来年こそは多くの皆様と一緒に抜け殻集めができることを期待しています。

(堀田 昌伸/自然環境部)



伊那会場(8/3)

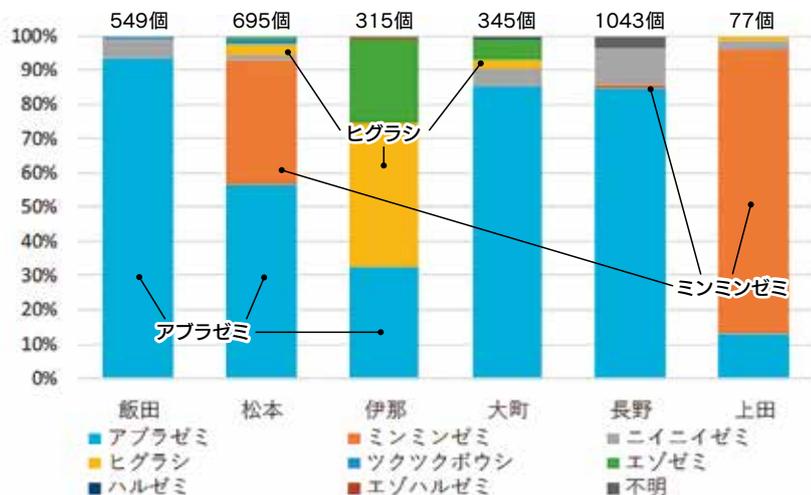


図. 抜け殻数と種構成(会場毎)

★今回の講座のために「しおり」と「抜け殻識別マニュアル」を作成しました。研究所のHPからダウンロードできます。



しおり



抜け殻識別マニュアル